

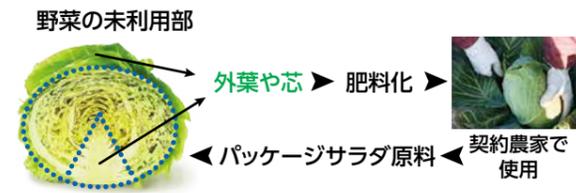
地球環境への取り組み

重点課題 **資源の有効活用・循環** **気候変動への対応**

野菜未利用部(キャベツなど)

12 つくば責任
つかう責任

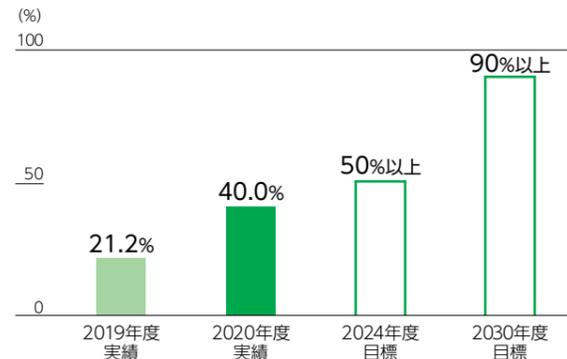
お客様に健康で豊かな食生活をおくっていただくために、サラダを手軽に楽しむことを提案してきました。惣菜やパッケージサラダの拡大にともない、野菜残さの循環活用の必要性が高まっています。原料の鮮度管理や歩留り向上に最大限注力するとともに、未利用部(芯や外葉、皮など)の有効活用に取り組んでいます。



野菜未利用部の肥料化

株式会社ウエルクリエイトとの協働で未利用部を肥料として、地域の農場で循環利用する取り組みを展開しています。デリア食品グループのハンシンデリカ綾部工場を皮切りに、惣菜工場やパッケージサラダを製造販売しているサラダクラブなど8カ所に導入し、未利用部の有効活用度は2020年度40%になりました。

野菜未利用部の有効活用度



株式会社ウエルクリエイト
代表取締役会長
松尾 康志 氏

野菜の発酵に優れ農地にも安心な枯草菌を使って野菜残さを肥料化し、契約農家に提供しています。キューピーグループとの協働により、循環経済の新たなモデル事業となるよう取り組みを進めています。

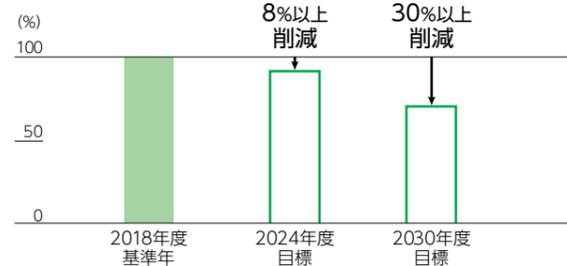
プラスチック排出削減と再利用

12 つくば責任
つかう責任

プラスチックごみが生態系や環境に大きな影響を及ぼす重要な課題と認識し、新たにプラスチック排出量削減率をサステナビリティ目標に加えました。従来からの商品容器の軽量化、薄肉化によるプラスチック削減を行うとともに、紙や再生材、バイオマスプラスチックへの代替を推進します。環境負荷を低減し、食の安全・安心と利便性との両立をめざします。



プラスチック排出量削減率



キューピー株式会社
家庭用本部
林 孝昌

ドレッシングの開発を担当しています。商品のおいしさや使いやすさに磨きをかけるとともに、地球環境への負荷をこれまで以上に低減できるような容器包装への切り替えを積極的に進めています。

食品ロス削減(商品廃棄削減)

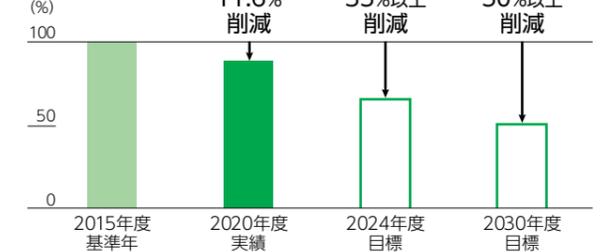
12 つくば責任
つかう責任

食品ロスはサプライチェーン全体の課題であり、特に商品廃棄については需要予測に基づく製造と、実際の需要とのギャップが要因で発生しています。製造・販売・物流の各部門と、お取引先が連携して製造から流通に至る過程での課題解決を進めており、一部のドラッグストアや外食企業のお取引先から取り組みを始めています。

お取引先と連携した返品削減の取り組み

関東地区の一部の販売店・卸店と連携し、売れ残りにより廃棄される商品の削減に取り組みました。各店舗の商品の販売傾向を見直して、商品の納入の最適化を図り、取り組みが難しいと言われていた返品ゼロを実現しました。社内外の連携を進めて、サプライチェーン全体での商品廃棄の削減に取り組んでいきます。

商品廃棄量削減率



キューピー株式会社
関東支店
高知尾 俊介

この取り組みは、お取引先を含め皆様の協力なくしては成し得ませんでした。これをきっかけに、食品ロスの問題を従業員全員が「自分ごと」として捉え、サプライチェーン全体での協力を進めていければと思っています。

CO₂排出量の削減

7 気候変動への対応
13 気候変動に
関係する目標

脱炭素社会の実現に向けて、サステナビリティ目標を見直し、2030年度のCO₂排出量削減率を20%以上から35%以上へと引き上げました(2013年度比)。

工場を中心とした省エネの取り組みに加え、太陽光発電設備の導入など再生可能エネルギーへの転換も進めています。さらに、長距離トラック輸送から鉄道・船舶輸送へのモーダルシフト、異業種メーカーとの共同輸送を推進しています。

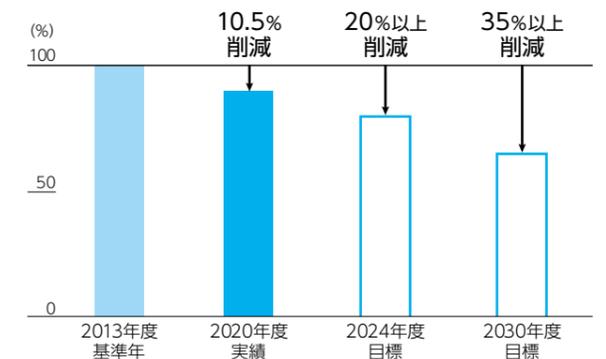
再生可能エネルギーへの転換

キューピータマゴ株式会社飯能工場では、グループで4カ所目となる自家消費型の太陽光発電設備を設置し、2021年2月より発電を開始しました。



キューピータマゴ飯能工場の太陽光発電設備

CO₂排出量削減率



キューピータマゴ株式会社
竹村 正宏

当社の主力工場である飯能工場では、最新鋭の割卵装置を導入するなど高効率生産を実現しています。太陽光発電を導入して、CO₂排出量の削減に向けた取り組みをさらに前進させることができました。